

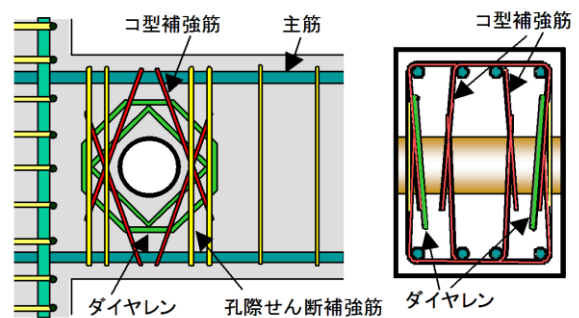
<p>【技術の名称】 Z-M ダイヤレン工法 -材端部に開口を設けた RC 梁の補強工法-</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第 01-15 号 性能証明発効日：2002 年 1 月 8 日</p> <p>【取得者】 株式会社銭高組 前田建設工業株式会社 コーリョー建販株式会社</p>
--	---

【技術の概要】
 本技術は、鉄筋コンクリート梁材端部に設けた開口部を既製開口補強筋「ダイヤレン（普通強度）」または「ダイヤレンS（高強度）」と孔際せん断補強筋ならびに主筋に緊結したコ型補強筋を組み合わせて補強する技術である。本技術を適用することによって、鉄筋コンクリート梁材端部に降伏ヒンジ領域が形成されても、設計で保証すべき鉄筋コンクリート梁の曲げ終局耐力と十分な塑性変形性能を確保できる。本技術の特色は、既製開口補強筋と孔際せん断補強筋のほかに主筋に緊結したコ型補強筋を用い、主筋の座屈ならびに開口部近傍におけるコンクリートの損傷拡大を防止している点である。

【技術開発の趣旨】
 鉄筋コンクリート造共同住宅などでは、設備配管用の開口部を大梁に設けることが多い。従来、開口位置は、構造性能確保の観点から大梁の材端部を避け、開口部から大梁材端部までの間に設備配管収納のための「下がり天井」を設けていた。しかし、その分だけ室内空間を圧迫することになる。本技術は、そのような問題を解消し、設計の自由度を高めることを意図して開発したものである。

【性能証明の内容】
 本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。
 申込者が提案する「Z-M ダイヤレン工法 設計

指針」によって設計される材端部に開口を設けた鉄筋コンクリート梁は、長期許容荷重時および短期許容荷重時の要求性能を満足し、設計で保証すべき曲げ終局耐力と目標としている塑性変形性能を有すると判断される。



従来工法で補強された試験体



Z-M ダイヤレン工法で補強された試験体

【本技術の問合せ先】

株式会社銭高組 技術研究所 担当者：五十嵐治人 E-mail：igarashi_haruhito@zenitaka.co.jp
 〒102-8678 東京都千代田区一番町 31 Tel：03-5210-2440 Fax：03-5210-2462
 前田建設工業株式会社 建築事業本部建築技術部 担当者：成瀬忠 E-mail：tnaruse@jcity.maeda.co.jp
 〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 2-8-8 猿楽町ビル Tel：03-5217-9542 Fax：03-5217-9641
 コーリョー建販株式会社 担当者：三原竜生 E-mail：mihara@koryo-kenpan.co.jp
 〒113-0021 東京都文京区本駒込 1-4-3 Tel：03-6902-5451 Fax：03-6902-5453